# 復興応援団だより

2016.2/N045
発行元：
一般社団法人
復興応援団
代表：佐野哲史
広報チーム
0226-25-9897

## 叡智を語り継ぐ『震災百物語』

いま、復興応援団は「震災百物語」という新たな企画に取り組んでいます。「震災百物語」は、復興応援団がお世話になっている、主に宮城県の方々100名にインタビューを行ない、震災を乗り越えてきた経験と叡智を広く発信する企画です。

具体的には、①発災直後からの避難生活でのご経験 ②今から思えば、こういう備えをしておけばよかったと思うこと の2点をお聞きしています。震災を経験していない、首都圏などほかの地域の方々にこの2点を伝えていくことで、今後起きるであろう首都直下型地震や南海トラフ地震の大震災を経験された方々の知恵や教訓を、時間の経過とともに埋もれさせてしまうのではなく、他の地域や次の世代に「叡智」としてしっかりと語り継いでいくことがこの「震災百物語」の最大の目的です。

↑インタビューの様子

「震災百物語」は、本年の3月11日に復興応援団のホームページ上で公開する予定です。現在までで約40名の方々に取材させていただいております。公開に向けて、今後も引き続きインタビュー活動を続けていきます。

（東北大・奥村典弘）

→インタビューの様子

## ㈱コスモスイニシア スタディツアー

12月11日、不動産開発企業・コスモスイニシア有志社員の防災減災スタディツアーを行ないました。仙台市内のあるマンションの管理組合役員だった佐々木さんに震災当時のお話を伺いました。

←佐々木さんのお話を聞くコスモスイニシアの方々

発災直後の混乱に際し、佐々木さんが、マンションのみならず、近隣の避難所も含めた地域全体の沈静化に努め、避難生活の秩序を創り出したという、濃密で熱いお話をコスモスイニシアの方も全力で受け止めている様子が感じられました。

私も、自分のことだけでなく、困っている地域住民のことを考えて行動した佐々木さんには大変感銘を受けました。

震災から4年9ヶ月が経過した現在、東北の叡智が全国の防災減災に活かされようとしています。（東北大・加藤諒一）

## 復興応援団とは？

私たちは、「地元の方が主役の復興」を目指し、主に南三陸町と多賀城市で活動しています。南三陸町では、地元の復興の担い手の元に全国からボランティアを派遣。復興のお手伝いを通じて南三陸の魅力に触れてもらい、中長期的に復興を支える「ファン」になってもらう取り組みをしています。多賀城市では、2012年4月より「復興応援団だより」を仮設住宅全戸にお届けするなど、住民のみなさんが中心となったコミュニティづくりを応援しています。そのような活動を通じて、地元の人自身が復興とまちづくりに立ち上がる大きなうねりを起こすことを目標としています。防災減災につなげていければと考えています。

東日本大震災から間もなく5年が経ちます。東日本

↑南三陸町で被災地の状況を学ぶ参加者

→多賀城市で復興応援団だよりを配布するスタッフ

## 今後の予定

○団だより3月号配布2月28日（日）予定